



安全対策特集 “備えあれば憂いなし” 治安編

ヒューストンで安全に暮らす秘訣:ウェビナーの「常識チェックリスト」より

5月13日に開催された上記ウェビナーでは、ヒューストンに20年以上滞在歴のある方々数名から教えていただいた治安関連の「常識チェックリスト」をご紹介します。本稿では、現地滞在の長い皆さんが常識として知っていること、また日頃から気を付けていることにつき、そのリストの一部を解説いたします。別途、過去に掲載した安全関連記事のリンクもご紹介しますので、この機会にバックナンバーもあわせて、ぜひご一読ください。(編集部)

1. 警察機関は市警のHPD (Houston Police Department) だけではなく、複数ある。

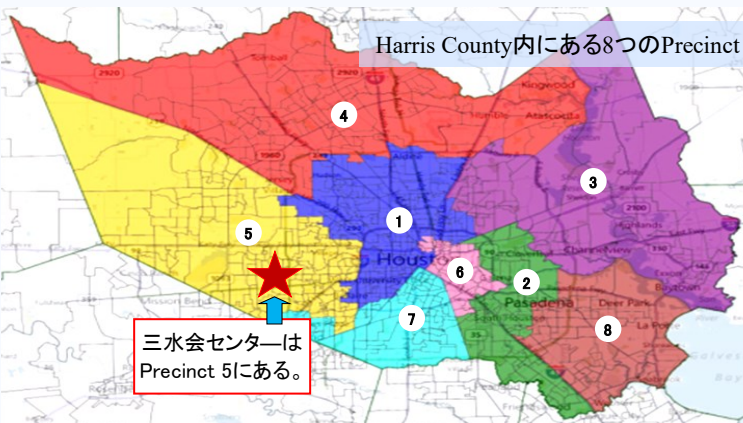
ヒューストンでは色々な制服を着た警察官やパトカーを見かけますが、それは複数の警察機関があるからです。例えば、ヒューストンの市内に存在する独立した市 (Landlocked Municipalities) や学区 (ISD) にも独自の警察機関があります。

このほかテキサス州内では、Precinct Constables, County Sheriffs, State Troopers, Texas Marshalls, Texas Rangersなどの警察機関もあります。警察機関に連絡する際、生死にかかわるEmergencyの電話番号は全て911ですが、それ以外のNon-Emergencyの番号はそれぞれの警察機関によって異なります。(例:HPDのNon-Emergency番号は713-884-3131)

Precinct Constableは地域に密着したサービスを提供していますので、この機会に居住地のPrecinct Constableの連絡先を携帯電話に登録しておくことをお勧めします。

★[ガルフストリーム2021年8月号](#)Page 6「ポストコロナにおける安全対策」& Page 7「警察の電話番号は911?」もぜひご一読ください。

ちなみに、当地ではほとんどの非番の警察官 (Off-duty Police Officer) が制服を着てセキュリティガードや交通整理のアルバイトをすることが許されています。たとえ非番といえども、管轄区内で法を犯した者を逮捕する権限はありますのでご承知おきください。



2. 土地勘を養っておく。

いつも同じ道を同じ時間帯に運転していると生活パターンを知られて危険な場合もありますし、突然の洪水でいつもの道が使えなくなった場合にも困ってしまいます。車社会のヒューストンでは、日頃から通勤・通学路の裏道を知っておくことは大切ですので、[Waze](#)や[HOUSTON-TRANSTAR](#)など、リアルタイムで交通渋滞や道路の閉鎖、冠水している道を教えてくれるアプリを携帯電話に一つ入れておくことをお勧めします。

銀行やATMで現金を下ろした帰路は、特に注意しましょう。後ろから車を意図的にぶつけられ、確認のため車外に出たところで銃で脅されて金を奪い取られるという事件も起きています。もし後ろに怪しい車が居る場合は、家に戻らず、最寄りの警察署や消防局、病院の救急センターなどに行き助けを求めることも可能です。現地に長

い方々から治安の悪い地区についてアドバイスを頂きつつ、日頃から土地勘を養っておくことをお勧めします。

3. 運転中、割り込みへの抗議や道を譲ってもらったお礼の意味で車のクラクションを鳴らさない。

クラクションを怒りに任せて鳴らすと、逆切れされるケースがあるので危険です。ヒューストンでは、フリーウェイの渋滞時に割り込んできた相手にクラクションを鳴らして銃で撃たれたケースもあります。「危険な運転をしている車には近寄らず、対抗しない」が基本です。また、道を譲ってもらった時にお礼の意味で手を振って“Thank you!”のサインを送ることはあっても、日本のようにクラクションは鳴らすことはしませんのでご注意ください。一方、「お先にどうぞ」と道を譲る際に、ヘッドライトのハイビームを一瞬ピカピカとつけて合図を送ることはあります。

★車関連の記事については、[ガルフストリーム2019年11月号](#) Page 4&5「ヒューストンで安全に暮らすコツ -車編-」が必読です。

4. 駐車する車の中に何も置かず、しっかりロックする習慣をつける。

駐車場に車を停める際には、周りから死角になるような場所ではできる限り避け、ガソリンスタンドで給油する時や、グローサリーの駐車場でカートを戻しに一瞬だけ車から離れる時にも、車のドアをロックする習慣を付けましょう。

車から離れる場合は、基本、外から見える場所には何も置かないことをお勧めします。駐車場では、常に周りから見られている可能性があるということを意識しながら行動しましょう。車上荒らしは、複数のチームで狙っている可能性が高いです。

最近では自宅前に停めた車からガレージ開閉のリモコンを盗み、留守中にガレージから泥棒に入る事件も増えていますので、ご注意ください。

5. 買い物をする時、出来る限り100ドル札は使わない。

まず、セキュリティ面からいうと、現金がたくさん入った財布を周りの人に覗き見されると襲ってくれとアピールしているのと同じになるからです。大きなお札は出来る限り人目の付く所で使わず、何か問題があった時にクレームしやすいクレジットカードを主に使った方が安全です。

もう一つの理由は、お店によっては100ドル札を受け付けない場合があるからです。それは、強盗を恐れて現金を店に置かない方針だったり、100ドル札が偽札の場合があるからです。

★[ガルフストリーム2020年2月号](#)Page 6「ヒューストンで安全に暮らすコツ -生活編-」もあわせてご一読ください。

6. 家に入出入りする業者にはスキを見せない。

アパートや一軒家で修理やメンテの業者などが来る際には、できる限り留守中に中に入れないことをお勧めします。もし業者を屋内に入れる場合は、事前に貴重品は隠し、可能であれば男性が同席することをお勧めします。やむを得ず留守中に入ってくることを許可する場合は、セキュリティカメラを屋内に設置しておくともよいかもしれません。また、庭仕事や外壁のペンキ塗りなども含め、どんな業者でもよほど信頼できる相手でなければ、料金の先払いを持ち逃げされる可能性があるため、しない方が無難です。

★「備えあれば憂いなし」ウェビナーの録画ビデオと資料は、[商工会HP](#)の「会員専用ページ」(要パスワード)に掲載されています。

【免責事項】本記事に掲載された内容については全てケースバイケースですので、万一内容に関して不利益を被る事態が生じたとしても、一切の責任を負いかねますのでご了承ください。